

平成30年度事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		水道事業(収益)		グループ担当名	水道グループ営業担当		
				評価者名	建設水道部長 石澤 憲		
総合計画	基本目標			予算科目	勤	水道事業会計	
	施策(大)				項		
	施策(中)				目		
	施策(小)				大事業		
事業期間	終期未定		平成	年度	～	平成	年度
要求区分	継続		マニフェスト	-			
根拠法令等					経費区分		
事業概要	快適な生活や都市活動を営む上で欠くことのできない重要なライフライン施設であり、安全で安心できる水の持続的な供給を確保するため、水道の信頼を維持し将来に渡り良いサービスを提供する。						
事業目的	①収納率の向上(未収金の解消) ②安心・安全な水を24時間供給する						
事業の対象	給水区域内住民						
実施結果 現状と課題	【実施結果】 未納者に対する給水停止など収益の確保に努めるとともに、安全な水の供給を継続した。						
	【現状と課題】 給水収益は減少傾向にあるため、未収金の解消に向けた取り組みによる収益確保が必要である。						
事業進捗度	1達成できた	進捗度3又は4の理由	左の具体的な内容				

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算	31年度予算(見込)
事業費 (千円)	456,307	444,696	434,004	423,884	432,283	423,747
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	456,307	444,696	434,004	423,884	432,283	423,747
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 ○○○千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	456,307	444,696	434,004	423,884	432,283	423,747

3. 評価

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
指標1	総収支比率	目標	%	110.0	110.0	110.0	110.0
		実績	%	115.3	121.8	140.2	
		達成率	%	104.8	110.7	127.5	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目	評価の視点	評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	水道事業は原則として市町村が経営するものとされている。(水道法第6条第2項)				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	安全な水の安定供給には計画的な事業運営が必要である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費の節減に努め効率的な執行を進めている。				
次年度の取組の方向性	事業内容	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 現在の成果を維持することが適当であるため。					評価結果
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 皆減 現在の成果を維持することが適当であるため。					
	予算反映額(概算)	0千円					
今後の改善点	人口減少による給水収益の減少は避けられないことから、収益の確保と効率的な事業運営が求められる。また、将来を見据えた料金改定の検討が必要である。						

平成30年度事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		水道事業(資本)		グループ担当名	水道グループ営業担当	
				評価者名	建設水道部長 石澤 憲	
総合計画	基本目標			予算科目	勤	水道事業会計
	施策(大)				項	
	施策(中)				目	
	施策(小)				大事業	
事業期間	終期未定		平成	年度	～	平成
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	
事業概要	快適な生活や都市活動を営む上で欠くことのできない重要なライフライン施設であり、安全で安心できる水の持続的な供給を確保するため、水道の信頼を維持し将来に渡り良いサービスを提供する。					
事業目的	健康的で安心した生活を送っていただけるよう、安全な水質を24時間途切れることなく供給する。					
事業の対象	水道関連施設					
実施結果 現状と課題	【実施結果】 安全な水を供給すべく、施設整備・管路整備・収納筐設置の各事業を実施した。					
	【現状と課題】 老朽施設及び老朽管の更新、施設及び基幹管路の耐震化など事業実施のための財源確保が必要である。					
事業進捗度	1達成できた	進捗度3又は4の理由	左の具体的な内容			

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算	31年度予算(見込)
事業費 (千円)	325,423	306,241	441,612	384,697	473,972	574,123
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	325,423	306,241	441,612	384,697	473,972	574,123
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 ○○○千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	325,423	306,241	441,612	384,697	473,972	574,123

3. 評価

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
指標1	有収率	目標	%	93.0	93.0	93.0	93.0
		実績	%	90.8	88.2	85.3	
		達成率	%	97.6	94.8	91.7	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目	評価の視点	評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	水道事業は原則として市町村が経営するものとされている。(水道法第6条第2項)				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	安全な水の安定供給には計画的な事業運営が必要である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費の節減に努め効率的な執行を進めている。				
次年度の取組の方向性	事業	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 老朽施設の更新、施設の耐震化を推進するため。				評価結果	
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 皆減 老朽施設の更新、施設の耐震化を推進するため。		予算反映額(概算) 0千円	拡充		
今後の改善点	必要な事業を実施していくために、優先順位や効率性などを考慮した計画的な執行が必要である。						

平成30年度事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		水道管路整備事業		グループ担当名	水道グループ施設担当	
				評価者名	建設水道部長 石澤 憲	
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり				
	施策(大)	07 上下水道の整備				
	施策(中)	02 水道の整備				
	施策(小)	02 水道管路の計画的な整備				
事業期間	終期未定	平成	年度	～	平成	年度
要求区分	継続	マニフェスト	—			
根拠法令等	水道法 美幌町水道事業ビジョン				経費区分	投資的経費
事業概要	老朽管の計画的な布設替と道路事業に併せた管網整備を実施する。また、基幹管路については地震等災害時においても給水が継続できるよう耐震化を図っていく。					
事業目的	老朽管の更新や新設による管網整備で、安定給水を継続する。					
事業の対象	給水区域内住民					
実施結果 現状と課題	【実施結果】 老朽管の布設替及び道路事業に併せた管網整備を実施した。					
	【現状と課題】 基幹管路の耐震化が必要であり、その中でも送水管は早急な整備が必要である。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	左の具体的な内容			

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算	31年度予算(見込)
事業費 (千円)	75,384	52,628	75,560	65,297	125,453	169,320
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	75,384	52,628	75,560	65,297	125,453	169,320
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 ○○○千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	75,384	52,628	75,560	65,297	125,453	169,320

3. 評価

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
指標1	有収率	目標	%	93.0	93.0	93.0	93.0
		実績	%	90.8	88.2	85.3	
		達成率	%	97.6	94.8	91.7	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目	評価の視点	評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	水道事業は原則として市町村が経営するものとされている。(水道法第6条第2項)				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	計画的な老朽管の更新及び道路事業に併せた管網整備は有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費の節減に努め効率的な執行を進めている。				
次年度の取組の方向性	事業	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 基幹管路の更新及び耐震化を推進するため。				評価結果 拡充	
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 皆減 基幹管路の更新及び耐震化を推進するため。		予算反映額(概算) 0千円			
今後の改善点	従来の老朽管更新と並行して基幹管路の整備が求められており、送水量が不足している送水管の更新(耐震化)が必要である。不明水対策として委託調査を検討する。						

平成30年度事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		量水器収納筐設置事業		グループ担当名	水道グループ営業担当	
				評価者名	建設水道部長 石澤 憲	
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり				
	施策(大)	07 上下水道の整備				
	施策(中)	03 水道事業の推進				
	施策(小)	01 効率化等による経営改善				
事業期間	10年度以上		平成 24 年度 ~ 平成 34 年度			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	水道法、計量法			経費区分	政策的経費	
事業概要	既設の量水器収納筐（角型・丸型・筒型）を計量法により定められている8年毎の量水器（水道メーター）交換に併せて伸縮式収納筐に交換する。					
事業目的	量水器交換の効率化による費用低減と住環境の保全を図る。					
事業の対象	給水区域内住民					
実施結果 現状と課題	【実施結果】 量水器交換に併せて、伸縮式収納筐を設置した。					
	【現状と課題】 順調に整備が進んでいる。					
事業進捗度	1達成できた	進捗度3又は4の理由	左の具体的な内容			

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算	31年度予算(見込)
事業費 (千円)	74,763	63,004	84,270	67,674	95,999	13,963
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	74,763	63,004	84,270	67,674	95,999	13,963
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 ○○○千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	74,763	63,004	84,270	67,674	95,999	13,963

3. 評価

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
指標1	無掘削型筐設置率	目標	%	57.3	57.3	72.8	86.0	87.8
		実績	%	44.4	56.6	71.1		
		達成率	%	77.5	98.80	97.70		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	水道事業は原則として市町村が経営するものとされている。(水道法第6条第2項)					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	伸縮式収納筐への交換は、量水器交換の効率化に寄与されるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費の節減に努め効率的な執行を進めている。					
次年度の取組の方向性	事業	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 現在の成果を維持するため。					評価結果	
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 皆減 現在の成果を維持するため。						
今後の改善点	事業完了に向けて、年度毎事業量は少なくなるため予算の縮小が可能となる。						予算反映額(概算) 0千円	

平成30年度事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		水道施設整備事業		グループ担当名	水道グループ施設担当		
				評価者名	建設水道部長 石澤 憲		
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり		予算科目	勤	水道事業会計	
	施策(大)	07 上下水道の整備			項		
	施策(中)	02 水道の整備			目		
	施策(小)	01 水道施設の計画的な更新			大事業		
事業期間	終期未定		平成	年度	～	平成	年度
要求区分	継続		マニフェスト	-			
根拠法令等	水道法 美幌町水道事業ビジョン				経費区分	投資的経費	
事業概要	水道施設の故障は水処理及び給水に多大な影響を与えるため、定期点検や維持管理で施設機能の延命を図りながら耐用年数を考慮し計画的に施設更新を進め安定給水を継続する。また、地震等災害が発生した場合でも、生命の維持や生活に必要な水を安定的に供給するため施設の耐震化を図る。						
事業目的	水道施設を計画的に更新するとともに施設の耐震性を高め、安定した水処理と給水を継続する。						
事業の対象	給水区域内住民						
実施結果 現状と課題	【実施結果】 老朽施設の更新及び耐震化実施設計を実施した。						
	【現状と課題】 浄水施設の老朽化が激しく、機能不足を補うための施設更新が必要である。						
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	左の具体的な内容				

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算	31年度予算(見込)
事業費 (千円)	23,360	26,816	102,970	78,106	113,884	244,100
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	23,360	26,816	102,970	78,106	113,884	244,100
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 ○○○千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	23,360	26,816	102,970	78,106	113,884	244,100

3. 評価

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
指標1	計画に基づく実施率	目標	%	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績	%	100.0	100.0	100.0	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目	評価の視点	評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	水道事業は原則として市町村が経営するものとされている。(水道法第6条第2項)				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	安全な水の安定供給のため計画的な施設整備が有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費の節減に努め効率的な執行を進めている。				
次年度の取組の方向性	事業	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 浄水施設更新、施設耐震化を推進するため。				評価結果	
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 皆減 浄水施設更新、施設耐震化を推進するため。		予算反映額(概算) 0千円	拡充		
今後の改善点	耐震不足となった重要施設の耐震化と老朽施設の更新を進める必要がある。						